

「直播コシヒカリ（鉄コーティング）」の栽培ごよみ

収量構成の目安

収量構成	目安
㎡当たり最高莖数 (本)	550~600
有効莖歩合 (%)	60~65
㎡当たり穂数 (本)	360
平均一穂粒数 (粒)	70
㎡当たり着粒数 (百粒)	250
登熟歩合 (%)	85
玄米千粒重 (g)	23.0

施肥設計 (例)

土壌区分		鉄コート直播コシヒカリ (22-5-20)	
		側条施肥による施用量	
沖積	砂壤土	27	32
	壤土	27	32
	粘質土	18	22

雑草防除体系

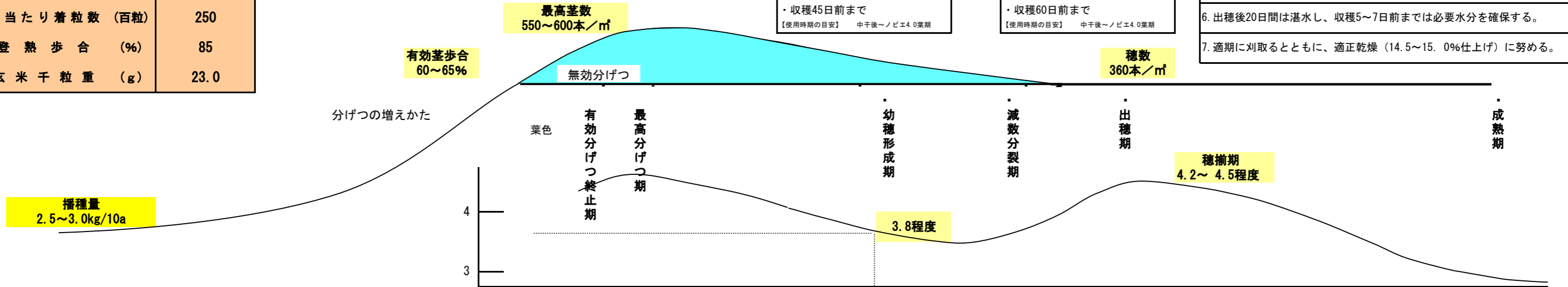
ペルーガ1キロ粒剤
 ・散布量 1kg/10a
 ・播種同時、散布機で施用
 ・ノビエ3.0葉期まで
 ・収穫90日前まで

アケシズMX1キロ粒剤
 ・散布量 1kg/10a
 ・稲1.0葉期を確認後に湛水散布
 ・ノビエ4.0葉期まで
 ・収穫45日前まで
 【使用時期の目安】 中干後~ノビエ4.0葉期

レプラスジャンボ
 ・散布量 10個(1袋)/10a
 ・稲1.0葉期を確認後に湛水散布
 ・ノビエ4.0葉期まで
 ・収穫60日前まで
 【使用時期の目安】 中干後~ノビエ4.0葉期

栽培のポイント

1. 均一な苗立ちを確保するため、ほ場の均平に努める。
2. 播種量は2.5~3.0kg/10aとし、㎡当たり60本程度の苗立ちを確保する。
3. 適正な中干しにより根の活力を高めるとともに、過剰分けつを防ぐ。
4. 幼穂形成期の葉色を3.8に誘導し、以降は飽水管理で葉色低下を防ぐ。
5. いもち病の発生に注意し、防除を徹底する。
6. 出穂後20日間は湛水し、収穫5~7日前までは必要水分を確保する。
7. 適期に刈取るとともに、適正乾燥 (14.5~15.0%仕上げ) に努める。



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
草刈時期		★	★	★	★	★			
生育区分		播種期	出芽・苗立期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登熟期	収穫期
水管理		湛水管理	飽水管理 (本葉1葉期)	浅水管理	中干し	間断かん水	飽水管理 (足跡の水が切れないように管理する)	出穂から20日間は湛水状態を保つ	間断かん水 (落水を急がないように)

←本田防除以降、収穫までは草刈りをしない→

水管理	4月	5月	6月	7月	8月	9月
湛水管理						
飽水管理 (本葉1葉期)						
浅水管理						
中干し						
間断かん水						
飽水管理 (足跡の水が切れないように管理する)						
出穂から20日間は湛水状態を保つ						
間断かん水 (落水を急がないように)						

栽培管理のポイント	4月	5月	6月	7月	8月	9月
浸種積算 60度の種子に鉄コーティングする						
種子は乾籾で 10アル当たり 2.5 ~ 3.0 kgとする						
出芽揃いを良くするため、ほ場の均平に努める						
基本窒素量は移植より10アル当たり0.5 ~ 1.0 kg減肥する						
施肥溝が残る程度のほ場の硬さで播種する						
播種同時または直後に除草剤を散布する						
播種後5~7日間は湛水管理を行う						
除草効果を維持するため、出芽が確認されるまで足跡の水が切れないように飽水管理を行う						
イネ 1.5 ~ 2.0 葉期に2回目の除草剤を散布する						
6月上旬に溝を掘り、かん排水の効率化に努める						
6月中旬頃、葉いもちの予防剤を散布する						
中干しにより、根の活力を高めるとともに、過剰分けつを抑制する						
中干し後は、間断かん水を行う						
幼穂形成期の葉色は 3.8 程度に誘導する						
幼穂形成期以降は飽水管理を行う						
穂いもちの出穂直前・穂揃期の2回防除を確実にを行う						
カメムシ類の穂揃期防除を確実にを行う						
穂揃期の葉色は 4.2 ~ 4.5 に誘導する						
出穂から20日間は湛水状態を保つ						
刈取り予定日の5~7日前までかん水する						
フェーン時は事前かん水して、品質低下を防ぐ						
籾の黄化率 85 ~ 90 %程度で適期に刈取る						
仕上げ水分 14.5 ~ 15.0 %						
1.9 mmのふるいで選別する						